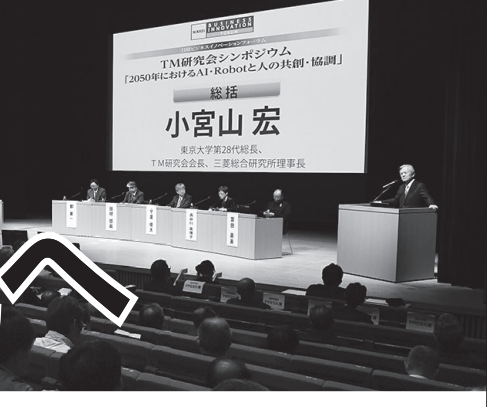


社会の課題解決と個人のハピネス実現へ



シンポジウム「2050年におけるAI・Robotと人の共創・協調」(主催:日本経済新聞社クロスメディア営業局、共催:2050技術・マネジメント知の育成研究会) TM研究会が、東京・大手町の日経ホールで開催された。冒頭、TM研究会の小宮山宏会長が開会を宣言。有識者や先端技術の活用に関する積極的な企業のエグゼクティブが登壇し、人工知能(AI)・Robotの進化の方向性などについて活発に意見を交わした。

講演

AI・Robotは飛躍期を迎えている。産業用ロボットだけでなく、生活に身近な分野での利用も広がっている。便利なものに依存し過ぎると、人間として機能不全に陥る恐れもある。山路氏。その一方で人間とAIが協働したとき、人間だけ、AIだけのときより優れた成果が得られるという研究結果もある。「AI・Robotは人間と

やりたいことのできる道具 山路氏
人文知でより良い社会を 五神氏
ロボットにも道徳が必要 鄭氏



東京大学教授 鄭雄一氏

「AI・Robot時代には、社会のあり方も変化する。東京大学の五神真氏。その中心となる従来の資本集約型社会から、知恵・情報・技術イノベーション、経済



アクセンチュア 戦略コンサルティング本部 マネジング・ディレクター 山路 篤氏



東京大学総長 五神 真氏

「AI・Robotは人間と道員として活用することを目指す」と山路氏は指



ハウステンボス取締役CTO hapi-robot 代表取締役社長 富田 直美氏



総合研究大学院大学学長 長谷川 眞理子氏

「AI・Robotは使いやすいが必須条件だ」と力を込める。山路氏。その一方で人間とAIが協働したとき、人間だけ、AIだけのときより優れた成果が得られるという研究結果もある。「AI・Robotは人間と



大和ハウス工業上席執行役員 大和ハウスパーキング代表取締役社長 田村 哲哉氏



日立製作所 テクノロジーイノベーションセンター 主管研究員 守屋 俊夫氏

普及に向けた課題も見えてきた。大和ハウス工業は「ヒューマン・ケア」の観点からロボット事業を展開。ロボットソフトや自動排せつ処理ロボットなどを提供している。同社の田村哲哉氏は、「ロボットは使いやすいが必須条件だ」と力を込める。山路氏。その一方で人間とAIが協働したとき、人間だけ、AIだけのときより優れた成果が得られるという研究結果もある。「AI・Robotは人間と

現場での使いやすさ必須 田村氏
実証実験による高速革新 富田氏
「AI・Robotは使いやすいが必須条件だ」と力を込める。山路氏。その一方で人間とAIが協働したとき、人間だけ、AIだけのときより優れた成果が得られるという研究結果もある。「AI・Robotは人間と

人間の能力伸ばす使い方 歯止めかけられる速度で

その成果をAIが学ぶという現象も起きている。守屋氏は、人間の成長に寄与する使い方の方向性について、AI・Robotと人間の共創・協調を考えると、重要なポイントになる」と述べた。

TM研究会とは 「2050技術・マネジメント知の育成研究会=TM研究会」として2008年に発足。三菱総合研究所理事長小宮山宏氏を会長に、機械、自動車、エネルギー、運輸、商社、金融・保険、不動産、コンサルティング、医薬品など19社の経営者と科学、技術、社会科学、医学などの学者を糾合した57人の知の集団。09年から毎年シンポジウムを開催し、テクノロジー(T)とマネジメント(M)の観点から日本が抱える課題解決を模索している。

- パネルディスカッション
バネリスト
鄭雄一氏
田村哲哉氏
富田直美氏
守屋俊夫氏
長谷川眞理子氏
ファシリテーター
山路篤氏



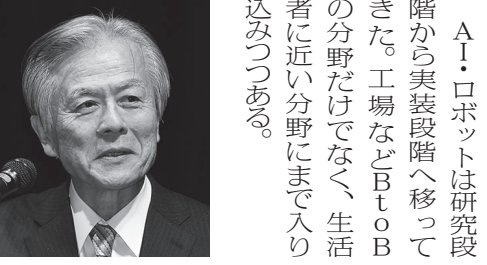
貨幣価値から道徳価値 粘り強い実装が不可欠 先端技術の副作用提示

山路 A: Robotの進化により生活が大きく変わるだろう。例えばAIが室内の状況を的確に判断し、空調や照明などを調節。指示しなくても自動的に快適な環境を創出・維持する。そうした稼働データを蓄積し、タブレットやパソコンと同じように引越しの住宅に持ち運べるようになれば、どこでも同じような快適性を享受できるようになる。鄭 A: Robot向けの道徳エンジンは、実装段階に進みつつある。将来的には、危害を加えない限り相手を仲間とみなすロボットが、一家に1台入る時代になるだろう。

社会課題起点のR&D ハピネスのための技術

守屋氏 人間は自身の成長を感じる。AI・Robotの進化の方向性として、できる限り相手を仲間とみなすロボットが、一家に1台入る時代になるだろう。長谷川氏 技術開発は進み、多くのことが可能になると思うが、本当にその方向性でいいのか検討する余地は残しておく必要がある。便利なもの、快適なもの、急速に社会

不安払拭して一歩前へ



東京大学第28代総長/TM研究会 会長 三菱総合研究所理事長 小宮山 宏

AI・Robotは研究段階から実装段階へ移ってきた。工場などBtoBの分野だけでなく、生活者に近い分野にまで入り込んできた。成長感がハピネスの一つだ。という話があった。私は、本日は、新たな知見を得られたい。AI・Robotをいかにハピネスのために使うか、どのように人間と共創・協調を図るか、人間として失ってはならないものは何か。そうした課題を克服する方途の一端が見えたい。と思う。

企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局